

皆さん、おはようございます。

今日は、2学期の終業式で皆さんに出した課題について話をします。

2学期の終業式で、皆さんに出した課題はこうです。

「世界を、この世の中を、今よりもっと良くするために、これから自分に何ができるか、何をしたらよいか。」

その答えを冬休み中に考えて来てもらい、今日この場で発表してもらおう、正解はありませんが、皆さん一人一人の考えや思いは、皆さんの頭と心の中にあります、と言いました。それは、皆さん一人一人に、自分自身の問題として考えて欲しいと思ったからです。

今回は、指名する前に、発表したい人には手を挙げてもらって、考えを聞かせてもらおうと思います。手が挙がらなければ、指名させてもらいます。

授業と同じで、いきなり指名されてもなかなか答えにくいと思いますので、今から自分の考えを表明する時間を取ります。何か良い考えはないかと相談するのではなく、自分の考えを相手に伝えるだけです。スムーズに進むよう、まず方法を説明します。

各学年奇数クラスの方は左を向いてください。偶数クラスの方は右を向いてください。奇数クラスと偶数クラス、それぞれ向かい合った隣のクラスの人同士で、前の方から順番に握手をしてください。男女は問いませんので、恥ずかしがらずにお願いします。握手する相手がなくてあぶれてしまったら、自分の前か後の2人に混ぜてもらって、3人組になってください。もし4人になってしまったら、2人ずつ2組に分かれてください。そうやって、自分の考えを伝えるべき相手をお互いに確認してください。

お互いに相手が確認できたところで、まず、奇数クラスの方が偶数クラスの相手に、1分間で自分の考えを伝えてください。1分経ったところで合図をします。話の途中でやめてください。次に交代して、今度は偶数クラスの方が奇数クラスの人に1分間で自分の考えを伝えてください。3人組のところがあるでしょうから、最後にもう1分取りますので、3人目の人が他の2人に伝えてください。2人組のところは、3分めは、自分が答えることになった時にすぐ答えられるように、考えを頭の中で整理してください。

相手の考えを聞いて、感想や意見を言う必要はありません。聞くだけでいいです。

では、準備はいいですか？ 奇数クラスの人から始めましょう。用意、始め・・・やめ。

次に偶数クラスの人、いきますよ。用意、始め・・・やめてください。

では最後に3人目の人です。用意、始め・・・やめてください。

さて、それではいよいよ何人かに発表してもらいます。まず1年生からいきます。発表したい人はいますか？ 残念ながらないようなので、指名することにします。

1年〇組〇〇くん

「節電したら良いと思います。」と発表してくれました。

1年〇組〇〇さん

「掃除をちゃんとやる。」と発表してくれました。

ありがとうございます。2人ともとてもシンプルな考えですね。次に2年生に聞いてみましょう。発表したい人はいますか？ いませんか？ それでは指名することにします。

2年〇組〇〇さん

「まず自分から調べて世界を知ることが大切だと思います。全ての国が日本のように豊かなわけではないので、世界の現状を自ら知ることから始めたらいいと思います。」と発表してくれました。

1年生のシンプルな考えもいいですが、2年生なりの成長を感じさせてくれました。

2年〇組〇〇くん

「毎朝、地域の人に挨拶をすることが大事だと思います。」と発表してくれました。

どうもありがとうございます。とてもシンプルだけど、皆さんできますか？ 毎朝、地域の人に挨拶していますか？ なかなか簡単ではないかも知れない。でも、やってみると難しいことではないと思います。

では、いよいよ3年生です。君たち3年生が入学する時に私は校長として着任し、今まで一心同体で歩んできたはずなのに、ここで手が挙がらなかったら、ショックです。では聞きます。3年生で発表したい人！ では手を挙げてくれた〇〇くん。

3年〇組〇〇くん

「私は2学期の最後に校長先生から世界を良くすることを考えた方がいいと言われてから、毎晩毎晩、寝ずに考えました。何をしたら変わるのか、何をしたらこの世界が良くなるのか、ずーっと考えました。電車に乗っている時も、トイレに入っている時も、ご飯を食べている時も、ずーっと考えました。そして一つ結論が出ました。簡単なこと、漢字一文字、一番大事なのは「愛」なんじゃないですか。愛が無いと、この世界は良くならない。人を愛してもいい、動物を愛してもいい、音楽を愛してもいい、そして最後に、愛があつてみんなに何をしたいか、それは人類全員で、愛をもって、世界の中心で愛を叫びたい。」と発表してくれました。

彼が話すとき後的人是に話しにくいかもしれませんが、彼は手を挙げてくれると思っていました。ではもう一人、3年生。指名しましょう。

3年〇組〇〇さん

「現状維持がいいと思います。」と発表してくれました。

ありがとうございます。愛を叫んだ後、現状維持だそうです。3年生にはもう一人聞いてみよう。

3年〇組〇〇くん

「他人に何かを任せないことだと思います。一つ例を挙げるとするならば、電車の中で

お年寄りが目の前にいて、席を譲ろうかなという気持ちがあるのに、その優しさを他人に押し付けたり任せたりするのではなく、積極的に自分なりに良い行動をして、他人ではなく自分から優しい行動をすることが、世界を変える一歩なんじゃないかなと思います。」

どうもありがとうございました。本当にシンプルな答えから、プレゼンテーションにたけた発表まであったと思いますが、皆さん、これから先、必ず人前で自分の考えを表明する機会は増えます。その時に、まず恥ずかしくないこと。そして、正解がないと分かっていることなのだから、自分の考えをできるだけストレートに伝えられること。そういったことを考えてもらえるといいと思います。

それでは生徒諸君から聞きましたので、先生方にも2人くらい聞いてみたいと思います。

〇〇先生、お願いします。

「教員の立場を離れて、〇〇くんほどではないですけど、僕も寝ながら考えました。僕の結論は、他の人と接する時に、その人に少しでも良い気持ちになってもらうように接することかなと、最近思っています。例えば、昔はできなかったんですけど、最近しようとしているのは、バスを降りるときに運転手さんに「ありがとうございました」と言って降りるなど、感謝の気持ちを表現するとか、他の人に対してその場で気持ち良くなってもらえるように、少し心掛けるようにしています。」と発表してくださいました。

ではもう一人、〇〇先生、お願いします。

「〇〇先生とちょっと似ているところがあるんだけど、私は他人と接する時に、常に相手の立場になって物事を考えるということを、いつも実践しています。3年生の授業でプレゼンテーションをする時にも、一方的に自分の意見を言うのではなくて、相手が何を聞きたいかということを常に考えながら構成しようと、授業で言ったと思います。それはプレゼンテーションのみならず、日常的に人と接する時に、相手がどう考えてくるのか、例えば北朝鮮が今、色々と問題になっているけれども、北朝鮮の人たちはどうやって日本を見ているのか、常に相手側の立場に立って物事を見るということを、私は実践しています。」と発表してくださいました。

ありがとうございました。お2人の先生と7人の生徒諸君の考えを聞かせてもらいました。ここから先は、私の考えです。

始めに言ったように、こうやって自分自身の頭で考えてみることに、そのことを意識してみるということが、まず、この世の中を良くするために必要なことだし、大事なことだと思っています。発表してもらったことにもあったけれども、その内容が日常的なこと、近所の人に朝あいさつをするとか、節電に努めるとか、電車で席を譲るとか、そういったことから始まって、どんどん考えを広げていくと、もっと大きく話は広がっていくかも知れません。国内の経済格差の問題とか、国際紛争のことだとか、地球温暖化のことだとか。

でも、きっかけは小さなことで構わないから、自分に関わることとして、当事者としての意識を持つこと、これが第一歩です。この冬休みに、私が出した宿題に対して少しでも落ち着いて考えを巡らせてくれたら、その第一歩を踏み出したのだと思います。もし冬休

みの半月が、考える間もなくあっという間に過ぎてしまったとしたら、これを機会に少し考えてみてもらいたいと思います。

そして、そういったことを意識したら、次は実行する。それが大事だろうと思っていきます。これも2学期の終業式で話したように、そんなに大それたことができるわけではない。皆さんが一人であってもグループであっても、地球の温暖化を食い止めることは難しいだろうし、難民の人たちに安定した生活を保障することも、とても難しい。

でも、「たいしたことはできない」と「何もできない」は違います。根本的に物事を解決することはできなくても、少しずつでも良い方向に向かわせることは誰にでもできます。「世界中の人々」とか「苦しんでいる全ての人々」と考えると、「何もできない」という無力感に襲われることがあるかもしれないけれども、先ほど〇〇くんが言ったような、自分の目の前にいる人に少し親切にしてあげるということは、誰にでもいつでもできます。自分の目の前にいる一人にだったら、あるいは身近にいる誰かにだったら、何かできるかも知れない。

〇〇先生のお話に北朝鮮のことが出て来ましたが、北朝鮮の核武装やミサイル発射によってもたらされる国際社会の不安や緊張を和らげることはできなくても、観光で日本を訪れている外国人旅行者に手を差し伸べたり声を掛けたりして、より日本に来て良かったと思って帰ってもらうことは、できるかも知れない。それがひいては、譲り合いや助け合いを中心にしたグローバル社会の第一歩だと思います。グローバル社会というのは、各国がしのぎを削って競い合うことがメインではないと、私は思っています。

あるいはまた、だんだん風化しつつあるような東日本大震災や熊本地震。その被災地に行ってボランティアに参加することは簡単ではないかも知れないけれども、敢えて東北産のお米や熊本阿蘇産の牛乳を買ったりすることはできるでしょう。そうすることは、それほど難しいことではないと思います。そして、そうすることで被災地の皆さんは笑顔を取り戻せるかも知れないし、希望を抱けるかも知れない。

地球温暖化の話先ほど少ししましたが、年々深刻になっています。その地球温暖化を食い止めることが自分にはできないと思っても、夏とか冬とかエアコンの温度を2℃我慢して、エコな生活を実践することはできるでしょう。それが、火力発電や原子力発電に頼らなくてもいい、安全でクリーンなエネルギー社会が築けるかも知れない。

埼玉県交通事故死者数は、いつも全国ワースト何位です。埼玉県は死亡事故の多い県です。その県内の交通事故死をゼロにはできなくても、皆さん一人一人が自転車に乗る時にイヤホンを外して、安全運転に努めるだけで交通事故は減っていくかも知れません。それが、皆さんが被害者にも加害者にもならない、成熟した交通社会に繋がると思います。

皆さんが、たとい世界中のたくさんの人から尊敬を集めたり、高い評価を得たりすることができなくても、身近にいる人から一言「ありがとう」と言ってもらえることは、それほど難しいことではないと思います。先ほどお2人の先生がおっしゃったことも、やはりそういうことなのだろうと思います。そんなあなた方一人一人の毎日の小さな行動が、その善意が、周囲の人にほんの少しだけ幸せな気持ちを抱かせることができる。皆さんも、

人から善意を示してもらったら嬉しいですね。そういうほんの小さな幸せを感じることができれば、あるいは感じさせることができれば、相手の人は次に誰かに対してほんの少し良くしてあげようと思うかもしれない。

そうすることで、あなたが善意を示した一人の人の幸せは、波紋のように広がっていきます。そしてその波紋に触れた人が次から次へと広がっていくことで、この世の中は今よりももっと良くなると信じています。

結びです。繰り返しになります。

「たいしたことはできない」と「何もできない」は、全く違います。どうせ自分一人が何かしたって、何も変わりはないとあきらめてはいけません。どうせ自分がやらなくたって、誰かが上手くやってくれるだろうと人任せにしてはいけません。自分たちの未来をあきらめないこと、人任せにしないこと。皆さんに発表してもらったように、そのために自分にできること、すべきことを、自分で考えて、意識して、行動してください。

あなたにとって、今年が去年より少しでも幸せな年になりますよう。あなたの周囲の人たちが、あなたのお陰で、今年ほんの少しでも幸せな年になりますよう。その範囲が少しずつでも広がっていきますよう。あけましておめでとう。